

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
22	鈴木 幸司（12）	<p>1. 带状疱疹の予防接種に公的助成を求める</p> <p>带状疱疹の原因は、多くの方が子供の頃に感染する水ぼうそうと同じ「水痘・带状疱疹ウイルス」。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは背骨に近い神経に、症状を出さない状態で潜んでおり、加齢や疲労、ストレスなどによって免疫力が低下するとウイルスが再び目覚め、带状疱疹として発症する。80歳までに日本人の3人に1人がかかると言われる带状疱疹だが、その発症率は50代から増加することが統計的に知られている。また皮疹が治った後も約2割の方に長い期間神経痛が残り、失明、耳鳴り、難聴などの後遺症が残る場合がある。</p> <p>そこで、2016年3月から、幼児の定期接種に使われている水痘ワクチンが50歳以上を対象に带状疱疹予防として使用できるようになった。その費用は、例えば、発症予防効果の高い不活化ワクチンで1回2万4000円程度、これを2回接種する必要がある。</p> <p>ストレスが発症の原因とも言われる带状疱疹だが、長引くコロナ禍において、発症の増加が危惧され、带状疱疹の予防接種に対する公的助成を行う自治体も増えている。</p> <p>そこで以下のように質問する。</p> <p>(1) 任意接種であっても富士市からの助成がある予防接種には、どのようなものがあるか。</p> <p>(2) 带状疱疹の予防接種にも助成を行ってはいかがか。</p> <p>2. 業務委託等における富士市の現在の状況について</p> <p>2006年の「ふじみ野市プール事故」では、市教育委員会の職員2名が業務上過失致死罪に問われ、執行猶予付禁固刑の有罪判決が出された。たとえ市が民間に委託した事業といえども、最終的な責任は行政担当者にあるとしたこの判決は、業務委託を考える上で大きな影響を地方自治体に与えた。</p> <p>富士市も放課後児童クラブ一括運營業務委託等、様々な形で民間活力の導入が図られた一方で、産業支援センターのように市の直営へと戻すケースも見られるようになっている。</p> <p>そこで、以下のように伺う。</p> <p>(1) 富士市地域産業支援センターBeパレットふじがオープンして9か月が経過したが、Beパレットふじの及ぼす効果について、どのように考えるか。</p> <p>(2) 現在、毎週木曜日、Beパレットふじが所管するテレワーク実践会議室にはコニカミノルタ静岡のスタッフが常駐している。富士市と富士商工会議所、富士市商工会とコニカミノルタ静岡の4者間において「テレワーク推進に関する連携協定」が締結されているが、その狙いは何か。</p> <p>(3) 今回、当初予算に計上された2件の改修工事が、入札執行前に予算額の変更を余儀なくされるという異例の事態となった。今後の再発防止策として、改修工事の設計業務を民間にアウトソーシングする考えはないか。</p>	市長 及び 担当部長